

2024年度活動概要

自律学習研究会

自律学習研究会は、東北支部担当の第49回 JACET 年次大会において、「明日の学習者、明日の教師：英語教育における学習者と教師の自律的成長」という大会テーマを実質的に支える研究会として2007年に誕生した。以来、国際大会では、大会テーマとのリンクを意識したシンポジウム等を企画し、共同研究発表を継続してきた。

まず本年度の第63回 JACET 国際大会（於・愛知大学）では、SIG ポスターセッションにおいて、これまでの研究活動についてまとめ報告した。2022年度からオンラインで年2回開催している研究懇談会も継続しており、第1回（6月30日開催）では新会員の Jagno Orshi 先生（弘前大学）に”Building a SALC for Medical Students”実践報告をいただいた。第2回（11月10日）では”Language Learning, Technology and Autonomy”と題したシンポジウムを開催し、Jagno Reik 先生（弘前大学）、河内智子先生（神奈川大学）、片桐早苗先生（弘前大学）が話題提供し、授業内での AI 使用と学習者の自律について活発な意見交換がなされた。また、林千賀先生（成蹊大学）が「自分でデザインする英語学習－3年間の実践と課題」と題した実践報告をされ、SIG 活動が実践共同体としての役割を果たしている。

2024年度からの新たな取り組みとしては、オンラインでの読書会が発足した。課題図書として”Identity, Motivation and Autonomy in Language Learning” (Edited by Garold Murray, Xuesong (Andy) Gao and Terry Lamb, Multilingual Matters, 2011) を会員有志で読み進め、より実践と理論の融合を目指して活動を継続している。

本研究会としては、今後も時代の求める自律学習のあり方を探究しながら、実践共同体としての自律学習研究会としての活動を発展させていきたい。